

3期ぶりの黒字決算を実現し、大きなターニングポイントである夏季手当交渉で

賃金抑制と社員の意識転換に終始する会社姿勢に立ち向かう中央執行委員会見解

6月7日、申13号第3回交渉で「基準内賃金の2.5ヶ月分に5万円を加えた額」の回答が示された。

今夏季手当交渉は、3年以上続いたコロナ禍を乗り越え、私たちにとっては3期ぶりの黒字決算を果たしたターニングポイントであり、組合員の期待と注目が大きい交渉であった。それは、緊急再申し入れ交渉までにJR東労組本部に届いた労働実感・生活実感を踏まえた11700件を超える声からも明らかだ。

しかし申13号会社回答は、3年間コロナ禍における特別手当を求め続け、労使議論を積み上げた結果として、一定の要求の前進は確認できるものの、交渉経過に踏まえると熟慮された回答とは言えなかった。

会社回答書は「3期ぶりに黒字を確保することができた」としつつも、会社全体の「モードチェンジ」を執拗に訴えた。とくに「これまでの延長線上の意識や取り組みで良しとするのではなく新たなチャレンジ」「経営への参画意識を持ち、ポストコロナを新たなビジネスに取り込んでいく」「自分自身の成長と会社の成長」といった回答書に、職場からは「あれだけ組合員・社員に『黒字必達』と鼓舞し続けたにも関わらず、黒字を達成したら、さらに意識転換を求めるのか」「経営側と現場の認識の違い・溝の深さを感じる」「そもそも労働組合の要求に対する回答書なのか目を疑う」など、失望と怒りの声が出された。

あらためて、労使交渉の重要性を認識した中で、私たちが訴えてきた労働実感・生活実感が、どこまで経営側に伝わり、どこまで認識が深められているのか甚だ疑問である。さらには繰り返される「最大限の回答」に納得感が得られないことから、妥結の判断には至らず、申15号緊急再申し入れを行った。

申15号交渉では、申13号交渉以降、2日足らずで寄せられた4400件に及ぶ組合員・社員の声に基づき、黒字転換を実現した組合員・社員の努力に報いない、コストカットや施策によって今までにない働き度で疲弊している職場現実、納得感を見いだせない回答を繰り返す経営姿勢について訴え、再考を求めた。悔しくも会社から納得する回答が示されることはなく、コロナ前には戻らないと述べつつ、期末手当は「主として」短期的な業績や収益力向上が重要と述べ「最大限の回答であり最終回答」を繰り返すばかりで、私たちの要求実現には至らなかった。元に戻らない業績だけで判断されれば、期末手当の水準がコロナ前に戻ることはない。

私たちは、コロナ禍の状況下で「赤字になれば黒字必達」「変化を恐れず果敢に挑戦」「チャレンジを続けて欲しい」など、我慢を強いられ続けてきた。そして、日々弛まぬ努力を続け、家族からの支えもあり、3期ぶりの黒字転換を果たしてきた。

とくに、日々の安全・安定輸送と台風や大雨などの災害に対する復旧・運行確保に向けて昼夜問わず奮闘している。またジョブローテーションの運用において、一部職場では会社が述べていた主旨や交渉確認にも逸脱している運用が行われ、さらには人権無視・人格破壊のパワハラとも言える行為も行われている。最近では、ジョブローテーションによる異動の発令で、豊田運輸区の組合員が出勤できない状況にまで追い込まれた。

このような私たちの努力に報いることなく会社は「目標に届いていない」「樂觀できない」「順風満帆とはいえない」などと、私たちの努力を無下にするような回答までした。さらには「新たな定常状態」いわゆる「定期収入が9割しか戻らない」など、賃金抑制の新たな理由まで述べはじめている。

これでは、いつまでたっても「厳しい経営環境」と言われ続け、回答は「最大限」と再三繰り返され、「年間手当5ヶ月ベース」としようとしているかのような姿勢が透けて見える。このままでは、ただただ私たちは“働き損”となるのではないかと危惧する。

職場は「融合と連携」などによって、働き度はどんどん増している。それは、コロナ前とは比べものにならない程の努力である。その努力が賃金として現れないことが「経営と現場の溝だ」と、組合員・社員の声からも出されている。よって、このような経営姿勢を打ち破るためには、全ての労働者の力を結集させ、「最低限6ヶ月ベースに戻していくべきだ！」と、声を大にして訴えていこう！

中央本部は「主として」職場の努力を重要な要素にするべきことをこれからも求め続けていくことを代表者会議で確認し、要求実現に至らなかったが、苦渋であるが妥結の判断をした。

全組合員と会社の経営姿勢をつくりかえるために、組織強化・拡大を何としてでも成し遂げよう！同時にバス関東本部・バス東北本部・ステーションサービス協議会の夏季手当等交渉の要求実現に向けて、職場から連帯してたたかおう！

2023年6月9日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会